

平成16年に市制施行50周年を迎えた成田市、平成17年に町制施行50周年を迎えた下総町・大栄町の1市2町は、平成18年3月に合併し、新「成田市」として新たなスタートを切りました。



①成田国際高校吹奏楽部による記念コンサート②下総町での閉町式  
③大栄町での閉町式④市内も大きな被害に見舞われた東日本大震災  
⑤開業初日の成田湯川駅⑥平成22年3月うなりくんに特別住民票を交付

## 成田スカイアクセス線が開業

平成22年7月17日、成田空港と都心を結ぶ新たな鉄道路線として成田スカイアクセス線が開業しました。これにより、京成日暮里駅と空港第2ビル駅間の所要時間が最短36分となり、交通アクセスが飛躍的に向上しました。同時に、松崎地先に成田湯川駅が新たに開設されました。

## 東日本大震災で市内も大きな被害を受ける

平成23年3月11日、三陸沖を震源とする東日本大震災が発生しました。マグニチュードは9.0、最大震度は7で、東北地方を中心とした太平洋沿岸で巨大な津波が発生したほか、福島第一原子力発電所の事故による放射性物質の放出など、甚大な被害に見舞われました。

震度6弱を記録した市内でも、崖崩れや家屋・道路・橋梁の損壊などの被害が発生しました。また、ガソリンスタンドには長蛇の列が見られ、計画停電が実施されるなど、生活に大きな影響が及びました。

### 平成16年～23年の出来事

平成16年	11月	十二代目市川團十郎さんと室伏広治さんに市民栄誉賞を授与
	2月	滑河駅新駅舎が竣工
平成17年	3月	成田市・下総町・大栄町が合併協定書に調印
	4月	コミュニティバスが運行開始
平成18年	3月	成田市・下総町・大栄町が合併
平成20年	6月	休日窓口サービスをスタート
平成21年	10月	成田空港B滑走路が2,500メートルに延伸
平成22年	1月	成田市観光キャラクター「うなりくん」が初登場
	7月	成田スカイアクセス線が開業
平成23年	3月	東日本大震災が発生

## 滑河駅新駅舎が竣工

大正9年から84年間にわたり下総町を見守ってきた旧滑河駅舎が改築され、町制施行50周年を迎えた平成17年2月11日に、新駅舎の竣工式が行われました。関係者約30人が出席し、通学で利用する下総高校からも代表生徒が参加しました。



滑河駅の新駅舎(上)と旧駅舎(下)

# 新「成田市」の幕開け

## 成田市・下総町・大栄町合併記念式典



## 成田市・下総町・大栄町で合併の道を歩む

平成7年に「合併特例法」が改正されたことにより、全国で市町村合併が推し進められていきました。

平成14年11月、成田市・下総町・大栄町を含む2市7町で、任意の合併検討協議会を設置することに同意。その後、成田空港圏の2市8町1村が参加して、合併に向けて協議が進められました。しかし、平成15年3月、成田市議会で法定協議会設置議案が否決され、合併構想は白紙に戻されました。

その後、平成15年9月、成田市議会の冒頭で、生活圏と空港圏が合致する2市4町を最大の枠組みとして、合併方式を編入方式とするなどの「市町村合併に関する基本的な考え方」が表明されました。

平成16年1月に開催された、2市4町首長会議で各市町の意向が確認され、同意した成田市・下総町・大栄町で合併協議が進められることとなりました。合併に向けて、住民説明会やパブリックコメントなどを実施し、住民に情報を提供するとともに、意向を把握していきました。

そして、平成17年3月15日、成田市・下総町・大栄町合併協定調印式が行われました。

合併後も住民サービスが低下することのないよう、事務手続きの統一化など、念入りな打ち合わせが進められ、迎えた平成18年3月27日。成田市役所庁舎前でテープカットが行われ、新「成田市」が誕生しました。同年4月29日には、合併記念フェスティバルが国際文化会館で開催され、記念式典のほか、成田小学校合唱部と成田国際高校吹奏楽部による記念コンサート、伊能歌舞伎の記念公演などが披露されました。

## うなりくんが初登場

広報なりた平成22年1月1日号で成田市観光キャラクターとして初登場した「うなりくん」。全国から応募のあった1,557点のキャラクターから、選考委員会での選考と市民投票で選ばれました。成田空港を飛び立つ飛行機と名物のウナギをイメージしたデザインで、現在も市内外のイベントなどで成田市のPRに活躍しています。